受講生からの感想を一部抜粋してご紹介いたします

・本講習に参加し、性暴力被害者支援について決意を新たにすることができました。今後は、この学びを少しでも社会に還元できるよう、被害者支援に努めたいと思います。

・勉強の機会を与えて下さったことにとても感謝しています。今回学んだことを、自分の生涯の仕事上へつなげていこうと思います。いろいろな専門家の先生のお話をうかがえたこと、また相談窓口を知れたことが貴重な経験となりました。いつか私自身も講師の先生のようになれたらいいなと思いました。

・今まで被害者に共感的に関わることが最も大切だと思っていたが、支援者が巻き込まれてしまうことも考えなければならないという事がわかった。「ひとりではない」と口で伝えるだけではなく、被害者ができそうなことを一緒に考える、寄り添うという視点が大事だということを学んだ。

・私たちは他人や自分の〝できなかった事〟に着目しがちだが、今回の講義を受けた事で、〝少しでも、できた事〟〝行動したという事実〟に目を向けることが大切だという事も学んだ。被害者をサポートしていくには、どうしてその行動をするのかや、脳のしくみなど、知識を得た上で関わっていく事が重要であるという感想を持った。

・法医学の先生の話もとても興味深く聴くことができた。実際に写真を撮るための注意はよくわかった。創傷の写真を撮る際にも気にとめていきたい。

・グループワークで NERS*を使って事例の対応を考えた際に、感情的にならずに内容の整理を進めていくことができた。養護教諭で子どもの虐待等の事例にかかわる際に NERS を使いたいと考えた。（*NERS：看護倫理論証スキルズ）

・医学的証拠採取、記録、法医学的写真撮影について：証拠採取の写真撮影のポイント（スケールを入れること、損傷場所が分かるように少し引いて撮影する。損傷の詳細が分かるように近接して撮影する）や、写真撮影の悪い例、デシタルファイルでの保存など学校での対応にも活用したいと感じた。

・ロールプレイは難しかったです。普段から患者やスタッフと面接などや保健指導でかかわることも多いが、それとは違う困難さや言葉の使い方、トーンなど、気を付けながら行うことなど多くの気づきがありました。

・司法面接に関与することは少ないですが、RIFCR*の知識を得た上で慎重に対応していきたい。今研修を実践で生かしていけるように、行動に移していきたいと思います。（*RIFCR：性虐待だけでなく、身体的虐待やネグレクト、いじめなどにもご活用いただける面接技法）

・私たちに出来る事、寄り添うこと、傾聴共感すること、その後の生活の援助ができる支援へ結びつける。安心できる場所の提供、私たちとの関わりで少しでも信頼関係を築くこと、を地道に行っていきたいと思います。

・実際の警察の役割を知ることができました。警察が関わることで公費負担を含めた被害者支援があることがわかり、警察への相談を迷っている被害者への情報提供に役立てることができそうです。

・傷の見方は興味深かったです。救外で働くこともあるため、虐待を疑うポイントは大変参考になりました。傷を正しく記録するだけではなく、診察内容を理解することで安心して診察が受けられるよう援助できることにつながると思いました。

・また、自分が良いと思っていた声かけが、患者にとっては良くない声かけもあったんだと知ることができた。返答に困ったり、悩んだりする要因として、性暴力被害を受けたあとの流れを自分自身がよく分からなかったというのもあったのだとも気付くこともできた。

・来年度より SANE 看護師として自律できるよう、今回の研修の復習や過去の資料、マニュアルなど熟読し、経験も重ねていきたい。また、自部署である救急外来のスタッフへも、研修で受けた内容を還元できるよう、救急外来全体が性暴力をキャッチできるアンテナを高め、支援センターへ繋げられるようなマニュアルやフローチャートの作成、勉強会などを開催できるようにする。

・アタッチメント、トラウマ、DID（*）について学ぶことが出来た。今後さらに知識を深める中で、頂いた資料を基に現場のスタッフへまず講義し、伝えていきたい。
（*DID：解離性同一性障害）